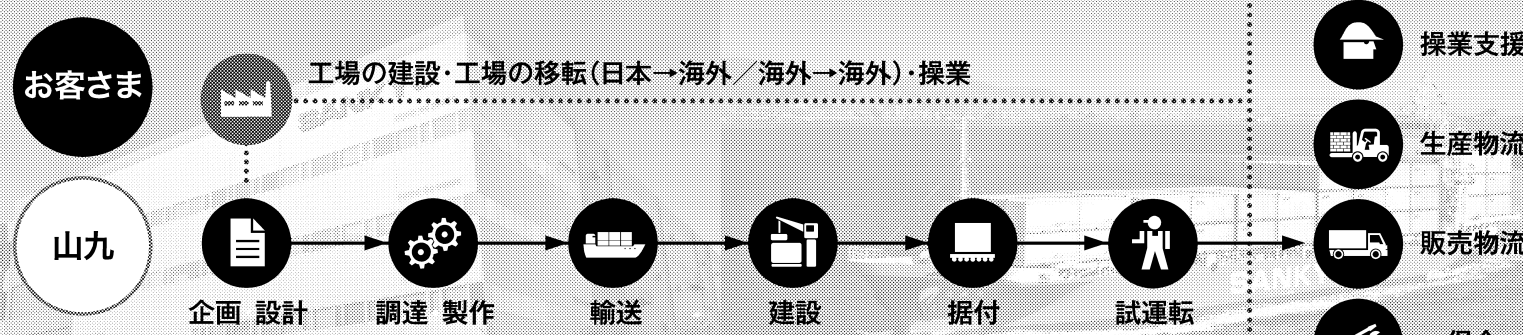


建設、物流、操業。

すべてを支えることで、“Thank you”
言われたいトータルサポートです。

山九は、プラント・エンジニアリング、ロジスティクス、オペレーション・サポートを有機的に結びつけた世界でも類を見ないユニークなビジネスモデルを構築しています。プラント機器の設計から建設、輸送、据付、試運転。さらに、操業支援、メンテナンス、物流(調達、生産、販売)まで、お客さまをトータルサポートします。

お客様をトータルサポートする一貫したビジネスフロー



SANKYU

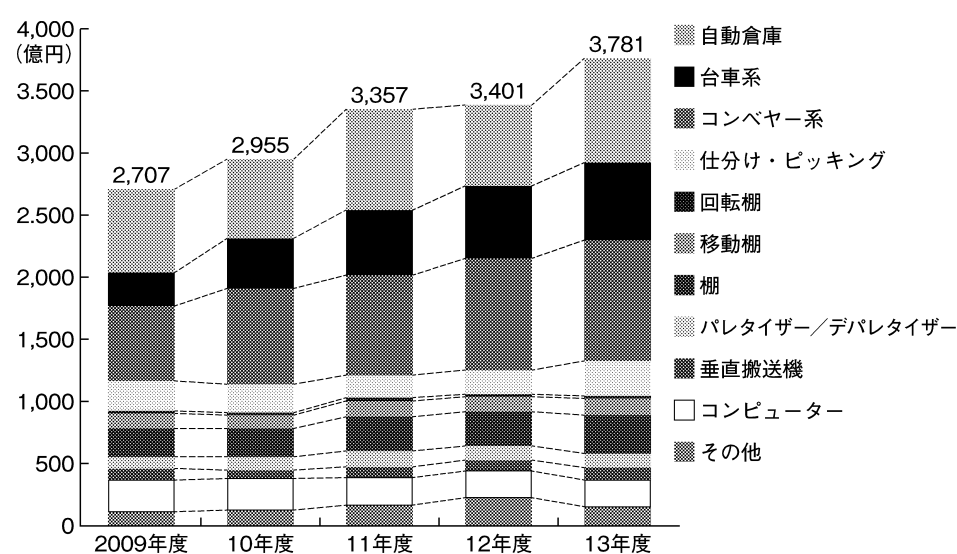
〒104-0054 東京都中央区勝どき6丁目5番23号 TEL (03)3536-3939 (代)

http://www.sankyu.co.jp/ 山九

検索

物流システム機器 高水準で推移

総売上金額の推移



今回の調査結果では、海外向け売上金額は、12年度の853億2700万円から、13年度は前年度比30%増の1108億500万円と増加し、インルーム向けの割合が加えて13年度は、物流システム機器の主たるユーザーである電機メーカーの業績回復により、半導体や薄型ディスプレイ(FPD)などでの設備投資が増加したことで、クリーンルーム向けの売上高が大きく伸長している。これらの要因により、売上高が高い水準で推移したようだ。

無人搬送機

高速・安全に運用

このように好調な中にある中でも、メーカー各社の中では、新分野開拓へ向けた技術開発を進めている。具体的には、

例えば大手メーカーのダイフクでは、無人搬送機(AGV)に着目して、その高速運用を可能にする安全技術、エリア管理システムについて、早ければ3、4年後の市販化を目指している。同社は14年2月に、日本品質保証機構から生活支援ロボットの国際安全規格「ISO13482」の認証を取得したのを機に、今後普及の可能性があるAGVの高速走行に頭を悩ませている。ダイフクでは、同システムを市場に出すことで、AGV高速化への1ステップにしている。

設備投資・海外向け堅調

日本ロジスティクスシステム協会(東京都港区、西田厚聰会長)がまとめた、物流システム機器25種について、国内主要物流システム機器メーカーを対象にした「物流システム機器生産出荷統計」によると、2013年度の物流システム機器の総売上金額は、3781億200万円となり、2012年度の3400億8800万円から11.2%の増加を示した。調査対象にはパレット用自動倉庫や台車システム、ピッキング台車などが含まれている。



コンベヤーは好調な売り上げを示している

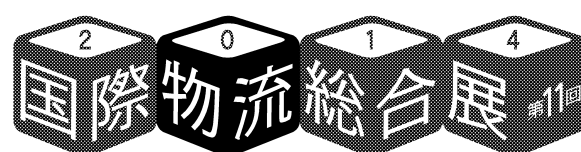
海外向けの物流システム機器は、電機メーカーの設備投資に伴うクリーンルーム向けの割合が増え、台車系も35.1億8800万円から同43.1億8700万円(同22.7%増)とそれぞれ増加を示した。なお自動倉庫、台車での海外向け金額は、いずれも半分程度ないしそれ以上がクリーンルーム向けで占められているようだ。

Yusen Logistics

世界をつなぐ、万能物流。

空から、海から、陸から、きめ細かいサービスで結んでいく。

ビジネスの形がさまざまに変化し続けている現在、物流に求められるニーズはより多様化しています。郵船ロジスティクスは、お客さまのご要望に柔軟かつスピーディに対応。グローバル総合物流企業の私たちにしかできない、テラーメードの物流サービスを追求しています。



郵船ロジスティクスは
国際物流総合展に出展します。
ブース No. 6-504

9月10日 15:40~16:10 セミナーB会場(5,6ホール)にて
当社のITソリューションを紹介します。

郵船ロジスティクス株式会社 www.jp.yusen-logistics.com